

ヤングケアラー支援 教職員に研修を実施



講演する近藤教授。ヤングケアラー支援の進むイギリスやフランスの政策を紹介した

学校現場でヤングケアラーへの理解を深めるため10月26日、教職員向けのヤングケアラー支援研修会を市役所で開催しました。

オンラインも含め、市内小・中学校の校長や教職員42人が参加。県立大学保健福祉学部長の近藤理恵教授が講演し、海外の福祉政策や子どもに必要な支援内容を紹介しました。市からは、9月に制定された総社市ケアラー支援の推進に関する条例の内容や学校現場が担う役割などを説明。今後の支援に向け、ヤングケアラーについての認識を共有しました。

問い合わせ こども課子育て支援係 (☎8268)



トラックに飲料水を積み込む市職員

水道用の橋が崩落し、大規模な断水が続いていた和歌山市を支援しようと、総社市は10月6日、被災世帯への支援物資として飲料水を送りしました。

飲料水は、災害用に備蓄していた500ミリリットルのペットボトル3360本。この日、市役所出発式があり、市職員2人が飲

料水を積んだ2トントラックに乗り込み、直接和歌山市へ届けました。

和歌山市では3日、紀の川に架かる水管橋と呼ばれる送水管の一部が崩落し、約6万世帯が断水。約13万8000人に影響が出ました。10日には、市内ほぼ全域で給水が再開されました。

災害用に備蓄していたペットボトル3360本

災害

断水の和歌山市に飲料水届ける

問い合わせ

危機管理室 (☎8599)



福祉文化先駆都市の実現へ 全国屈指福祉会議開催

11月5日、総社流の福祉施策を協議するため、総合福祉センターで全国屈指福祉会議が開かれました。

会議では、ひきこもりや障がい者、子どもの虐待などに対する支援策の取り組み状況を報告。出席した有識者からは、「子どもから高齢者まで全世代が抱える課題に、地域住民と専門職と一緒に知恵を出し合う仕組みが必要」といった意見が出されました。

これらの意見を基に、来年度の重点施策や目標を取りまとめます。

問い合わせ 政策調整課 (☎8213)

障がい者の生活の質の向上を目指して

障がい者千五百人雇用委員会を開催

障がい者の雇用促進や就労の安定化のため、10月14日に障がい者千五百人雇用委員会が開催されました。委員会には、名誉顧問の村木厚子さんほか、15人の委員が会場やオンラインで出席。また、来賓として厚生労働省職業安定局障害者雇用対策課長の小野寺徳子さん、沖縄県の中部地区障害者就業・生活支援センター花垣センター長の幸地睦子さんが参加しました。

会では、障がい者千五百人雇用事業の状況や総社デニムマスク事業の取り組みなどについて報告。委員からは、「福祉的就労から一般就労への移行に向けて就労移行支援事業所を考えてはどうか」、「就労者の定着支援だけでなく、交流する場をつくってはどうか」などの意見が出されました。

問い合わせ 福祉課障がい福祉係 (☎8269)



チームの中で私が一番応援してもらっていると感じました



市役所前に設置されたゴールドポスト。記念すべき1通目は、原田選手が心を込めて書いた両親への手紙が投かんされた

東京2020オリンピックで女子ソフトボールに出場し金メダルを獲得した原田のどか選手が、総社市に凱旋。11月9日、市役所前で市民栄誉賞授与式が開催されました。賞状などを受け取った原田選手は、「総社の皆さんの温かい応援のおかげで、がんばることができました。本当にありがとうございます」と感謝の気持ちを述べました。

また式では、市役所玄関前に設置された「ゴールドポスト」をお披露目。このポストは、同大会での金メダル獲得の栄光をたたえ、国と日本郵便がメダリストゆかりの地に設置しているもので、県内の設置は初めてです。

東京2020オリンピックで金メダル獲得!
原田のどか選手に市民栄誉賞を授与

問い合わせ

秘書室 (☎8215)

そうじゃ吉備路マラソン 大会中止のお知らせ

問い合わせ スポーツ振興課 (☎8367)

10月25日、市保健センターでそうじゃ吉備路マラソン実行委員会が開かれました。2022年大会の開催について協議し、新型コロナウイルス感染防止のため中止することが決定しました。

そうじゃ吉備路マラソンの開催を心待ちにしてくださっていた皆さまに、おわび申し上げます。

令和4年
2月中旬以降

代替イベントの開催が決定

大会の代替イベントとして、マラソンの元オリンピック選手瀬古利彦さんと大学駅伝の強豪・青山学院大学陸上部の原晋監督を招いて、トークショーとランニング教室を行います。令和4年2月中旬以降に開催予定。詳細は、決まり次第お知らせします。